世界が進むチカラになる。



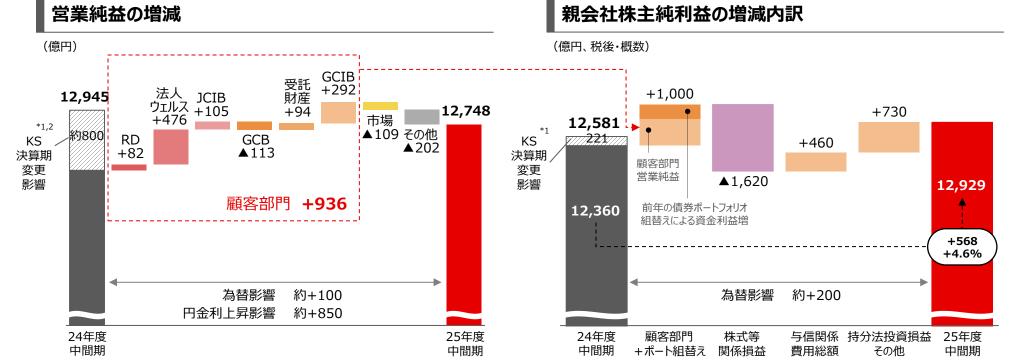


# 2025年度中間期 決算ハイライト

2025年11月14日

三菱UFJフィナンシャル・グループ

- ① 業務純益: 12,870億円 (調整後\*<sup>1</sup>前同比+613億円 / 期初目標対比進捗率58.5%) 顧客部門の営業純益\*<sup>2</sup>は、戦略的経費の投入やアジア経済の減速等の下押し影響を打ち返して増益
- ② 親会社株主純利益:<u>12,929億円(調整後\*<sup>1</sup>前同比+568億円/期初目標対比進捗率64.6%)</u> 顧客ビジネス中心に業務純益が増加したことに加えて、持分法投資損益の増加等により、中間期としての 過去最高益を3年連続で更新



本資料における「KS決算期変更影響」は、以下の\*1を参照

<sup>\*1</sup> KSの決算期変更(連結時に計上する決算期間を従来の1-12月から4-3月に変更)に伴う影響として、24年度中間期から業務純益で796億円、親会社株主純利益(税後・持分比率勘案後)で 221億円(KSの2024年1-3月期決算に基づく損益額を2024年9月末の為替で換算した概算値)を控除

<sup>\*2</sup> 社内管理上の連結業務純益

## 2025年度の業績目標引き上げ/株主還元

- **1** 顧客部門の好調、持分法投資損益の増加等を踏まえ、通期目標の上方修正を決定
- ② 株主還元として、年間配当予想を74円(前年度比+10円 / 期初予想比+4円)に引き上げるとともに、 下期に2,500億円を上限とする追加の自己株式取得を決議\*1(通期では過去最大の5,000億円)

### 25年度業績目標

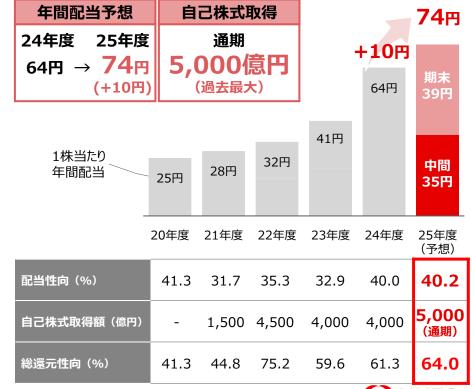
		25年度中間期	25年度中間期		<b>責目標</b>
MUFG連	<b>連結(億円)</b>	実績		25年度	期初目標比
1 業務純益	<u>\$</u>	12,870	)	22,500	+500
2 <b>与信</b> 関	<b>関係費用総額</b>	<b>▲763</b>		▲3,500	+0
3 経常利益	<b>£</b>	17,466		30,000	+1,500
4 親会社株	<b>k主純利益</b>	12,929		21,000	+1,000
金融指標	本邦政策金利	FF金利	日	経平均株価	ドル円
の前提	0.5%程度	4%程度	47	万円台後半	140円台半ば
< 親会社株主	<b>上純利益の増減要</b> 因	](億円、税後)>			21,000
20,00	00				

持分法投資損益

その他

顧客部門

### 株主還元



25年度

期初目標

金融指標の

見直し

25年度

修正目標

## 中計の3本柱の進捗状況:①成長戦略の進化

- ・ 成長戦略の進捗により稼ぐ力は向上
- 国内リテールにおいては、エムット Mのブランド認知向上に伴い、顧客基盤が拡大

### 営業純益の状況\*1

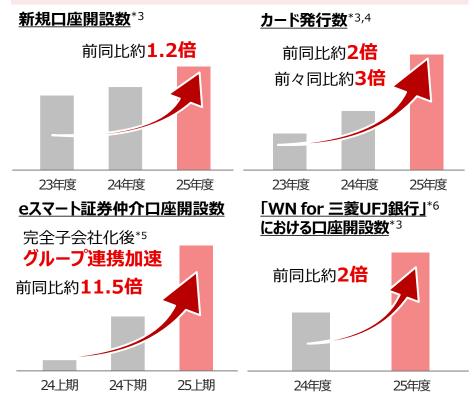


23年度 国内 法人× GCIB アジア 資産 GX その他 25年度 中間期 リテール WM 市場 プラット 運用 バリュー 中間期 フォーム ウ国 チェーン

## エムット 発表後の反応

- カードのポイントアッププログラムやグループ横断キャンペーンが奏功
- 26年度にはデジタルバンクをはじめとする新たなサービスをリリース予定

カード申込時の口座開設率はエムットリリース後、1.7倍\*2に向上



\*1 社内管理上の計数。現地通貨ベース \*2 ニコスのWebチャネルにおける申込 \*3 エムットリリース後期間(6月~9月)の比較

\*4 三菱UFJカード等の発行枚数 \*5 2025年1月31日以降 \*6 WealthNavi for 三菱UFJ銀行:ウェルスナビが提供する投資一任型のロボアドバイザー



## 中計の3本柱の進捗状況:②社会課題の解決・③企業変革の加速

- サステナブルファイナンスの拡大と新たな意見発信を予定
- 「AI-Nativeな企業」への変革に向けて、アジャイル運営や最先端技術を取り入れ

### サステナブルファイナンスの進捗

- サステナブルファイナンスの累計 実績は堅調な積み上がり
- 足元は、再牛エネルギー (約1.4兆円) やグリーン ローン・ボンド (約0.9兆円) が牽引



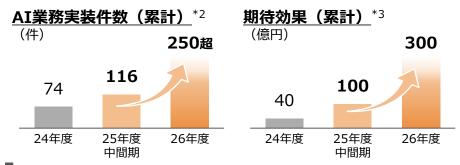
(兆円、2019年度以降の累積実績)

### トランジション白書4.0(12月公表予定)



#### AI戦略の進捗と期待効果

早期実装に向け、アジャイル運営とユースケース見直しを並行推進



### OpenAI社と戦略的なコラボレーションを開始

連携 内容

AI-Nativeな 企業風土の醸成

十

戦略的な ビジネスレビュー

• ChatGPT Enterpriseの全行員約3.5万人への展開

OpenAIソリューションをMUFGに導入

当社向けの最新の製品検証 など

新たな サービス室

最先端の AIテクノロジ-

MUFGのサービスをOpenAIのEcosystemに連携

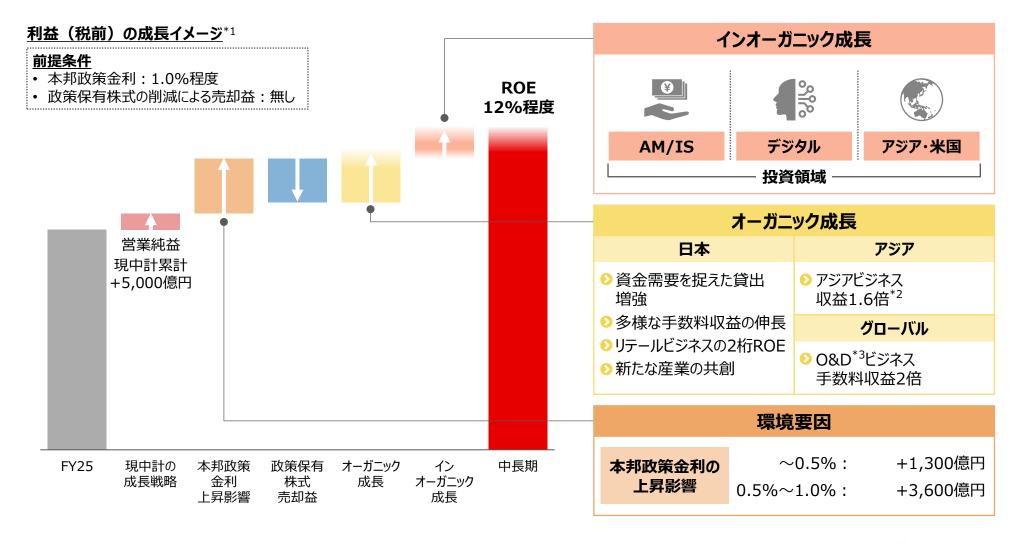
様々なサービスにOpenAIの最新のGPTを連携予定



- \*1 カーボンニュートラル \*2 生成AI、機械学習、SaaS等を含めた数字
- \*3 今中計開始時を基準に、一定の前提及びロジックに基づき試算した財務効果(みなし効果を含む)。今後の環境変化や目標見直し等により変動の可能性あり

## 中長期ROE目標12%程度への道

政策保有株式の売却益が無い前提で、更なる利益成長を遂げる



## MUFG設立20周年:企業価値向上の歩み

#### 2005~

#### 投資銀行業務を強化

#### 2005年

MUFG誕生、三菱UFJ信託銀行、 三菱UFJ証券誕生



#### 2006年

• 三菱東京UFJ銀行 (現三菱UFJ銀行)誕生

#### 2007年

三菱UFJ二コス誕生

#### 2008年

Morgan Stanleyとの 戦略的資本提携



- UnionBanCal Corporationを 完全子会社化
- アコムを子会社化

#### 2010年

三菱UFJモルガン・スタンレー証券、 モルガン・スタンレーMUFG証券 誕生

#### 2012~

#### ASEANでのプレゼンスを拡大

#### 2013年

タイの大手商業銀行クルンシィ (アユタヤ銀行)を子会社化



ベトナムのVietinBankと資本・業務提携

#### 2015年

• 指名委員会等設置会社へ移行

#### 2016年

・フィリピンのSecurity Bankと資本・業務提携

#### 2018年

・銀行、信託銀行の法人貸出業務等を統合

#### 2019年

• インドネシアのダナモン銀行を子会社化



 豪州をベースとするアセットマネジメント会社の First Sentier Investors (現First Sentier Group)を子会社化

#### 2020年

Grabと資本・業務提携

#### 2021~

#### ビジネスモデルの変革に挑戦

#### 2021年

- MUFG Way制定(経営ビジョンから改称)
- MUFGカーボンニュートラル宣言公表

#### 2022年

- MUFG Union Bank売却
- アジアのデジタル金融領域への出資を加速 (Home Credit、Akulaku、DMI、Mynt、 Ascend Money等)

#### 2023年

 Morgan Stanleyとの戦略的提携強化 「アライアンス2.0」



 グローバルAM/IS領域への戦略的出資決定 (AlbaCore、Link (現MUFG Pension & Market Services) を子会社化)

#### 2024年

- 三菱UFJアセットマネジメントを完全子会社化
- ・ウェルスナビを完全子会社化

#### 2025年

- ・auカブコム証券から三菱UFJeスマート証券 へ社名変更のうえ、完全子会社化
- 新サービスブランド (M エムット 始動)

2025年 設立20周年



世界が進む チカラになる。



2005年

**MUFG** 

誕生

損益の概要

### 連結P/L

	(億円)	24年度 中間期	25年度 中間期	増減	KS決算期変更 影響調整後
1	業務粗利益(信託勘定償却前)	1 29,118	29,357	+239	+1,893
2	資金利益	15,085	14,400	<b>▲</b> 685	+574
3	信託報酬+役務取引等利益	9,787	10,779	+992	+1,265
4		4,245	4,177	<b>▲</b> 67	+53
5	うち国債等債券関係損益	23	29	+6	_
6	営業費(▲) 期初目標対比	2 16,064	16,487	+422	+1,279
7	(経費率) 進捗率	55.1%	56.1%	+0.9ppt	+0.7ppt
8	業務純益 58.5%	13,053	12,870	▲183	+613
9	与信関係費用総額	3 ▲1,857	<b>▲</b> 763	+1,093	+657
10	株式等関係損益	3,639	1,302	<b>▲</b> 2,337	▲2,353
11	株式等売却損益	3,797	1,343	<b>▲</b> 2,453	_
12	持分法による投資損益	4 2,571	3,819	+1,247	+1,264
13	その他の臨時損益	162	238	+76	+91
14	経常利益	17,569	17,466	<b>▲</b> 102	+274
15	特別損益	<b>▲</b> 150	238	+389	+387
16	親会社株主中間純利益 64.6%	5 12,581	12,929	+347	+568
	(ご参考)				
17	ROE(東証定義)	12.6%	12.5%	▲0.1ppt	-

#### ① 業務粗利益(為替影響:約+100億円)

・円金利上昇影響の取り込み、前年の債券ポートフォリオ組替えによる収益改善を含めた資金利益の増加、国内外融資関連・ ソリューション関連手数料を中心とした各種手数料収入の増加、 海外における買収影響により、前同比増益

#### ② 営業費(為替影響:約▲0億円)

- ・海外における買収影響やインフレ影響に加えて、成長に向けた 戦略的な資源投入を実行したことで増加
- •経費率は、戦略的な資源投入に伴い僅かに上昇するも、 今中計のコントロール目線である60%程度を下回る水準を維持

#### 3 与信関係費用総額

・銀行単体において、大口の貸倒引当金戻入を計上した影響や、 前年に海外で大口の貸倒引当金繰入を計上した反動等で減少

#### 4 持分法による投資損益

• Morgan Stanley等の業績好調により増加

#### **5** 親会社株主中間純利益

- ・中間期としての過去最高益を3年連続で更新
- 一過性利益\*1の計上もあり、期初に掲げた通期目標2兆円に 対する進捗率は64.6%と高い水準



## (参考) 事業本部別業績(1/4)

### リテール・デジタル事業本部\*1

- 円金利上昇を捉えた資金収益増やCF\*2領域の増収が、 基盤強化費用等の経費増を打ち返し営業純益は増益
- 当期純利益は出資に伴う一過性の利益を計上したことに 伴い増益

(億円)	24年度 中間期	25年度 中間期	増減
粗利益	4,507	5,094	+587
預貸金収益	1,171	1,487	+316
 内為・外為	226	223	▲3
 資産運用	234	285	+51
カード決済	1,066	1,232	+166
コンシューマーファイナンス(CF)	1,558	1,617	+59
経費(▲)	3,250	3,763	+512
経費率	72%	74%	+2ppt
営業純益	1,257	1,332	+75
当期純利益	372	667	+295
*2 (		0.5	
RWA <sup>*3</sup> (兆円)	9.1	9.6	+0.5
ROE	7.0%	11.0%	+4.0ppt

### 法人・ウェルスマネジメント事業本部\*1

円金利上昇を捉えた資金収益の増加に加え、為替取引や 投資案件の取り込みによる内外為収益の増加、イベント 案件の獲得によるソリューション収益の増加等により増益

(億円)	24年度 中間期	25年度 中間期	増減	
粗利益	3,336	3,954	+618	
預貸金収益	1,182	1,754	+572	
内為·外為	486	511	+25	
デリバティブ・ソリューション	335	395	+60	
不動産・証券代行・相続	297	270	▲27	
資産運用	960	917	<b>▲</b> 43	
経費(▲)	2,106	2,233	+127	
経費率	63%	56%	▲7ppt	
営業純益	1,230	1,721	+491	
当期純利益	956	1,249	+293	
RWA <sup>*3</sup> (兆円)	16.3	16.8	+0.5	
ROE	11.5%	15.0%	+3.0ppt	



<sup>\*1</sup> 社内管理上の計数。現地通貨ベース \*2 コンシューマーファイナンス

<sup>\*3</sup> 社内管理上の計数。バーゼルⅢ規制最終化(完全実施)により2029年3月末に適用される規制に基づく試算値。その他有価証券評価差額金を含む

# (参考) 事業本部別業績(2/4)

### コーポレートバンキング事業本部\*1

- ソリューション・プライマリーでのイベント案件の獲得や、 不動産での大口案件の取り込み等により増益
- 営業純益の伸長の他、与信費用の抑制等により 当期純利益は大幅に増益

(億円)	24年度 中間期	25年度 中間期	増減
粗利益	4,513	4,767	+254
預貸金収益	2,489	2,580	+91
内為·外為 <sup>*2</sup>	443	435	<b>▲</b> 7
デリバティブ・ソリューション <sup>*2</sup>	384	459	+75
不動産・証券代行	324	381	+57
M&A·DCM·ECM*3	313	356	+43
海外非金利収益	440	443	+2
経費(▲)	1,779	1,875	+97
経費率	39%	39%	<b>▲</b> 0ppt
営業純益	2,734	2,892	+158
当期純利益	2,215	2,647	+432
RWA <sup>*4</sup> (兆円)	31.1	31.2	+0.2
ROE	13.0%	15.5%	+2.5ppt

## グローバルコマーシャルバンキング事業本部\*1,5

- KS:市況悪化による貸出金収益の苦戦により減益
- BDI:貸出金収益の伸び悩みにより営業純益は減益も、 与信費用の抑制により当期純利益は増益

(億円)	24年度 中間期	25年度 中間期	増減
粗利益	3,369	3,280	▲89
KS <sup>*6</sup>	2,534	2,445	▲89
BDI	764	761	▲3
経費(▲)	1,828	1,858	+29
(経費率)	54%	57%	+2ppt
KS <sup>*6</sup>	1,189	1,222	+34
(経費率)	47%	50%	+3ppt
BDI	419	428	+10
(経費率)	55%	56%	+1ppt
営業純益	1,541	1,422	▲119
KS <sup>*6</sup>	1,345	1,222	<b>▲</b> 123
BDI	345	333	▲13
当期純利益	490	600	+110
KS <sup>*6</sup>	431	420	▲11
BDI	111	124	+14
RWA <sup>*4</sup> (兆円)	7.4	7.5	+0.1
ROE	9.0%	11.5%	+2.5ppt

<sup>\*1</sup> 社内管理上の計数。現地通貨ベース \*2 国内分のみ \*3 不動産証券化等を含む \*4 社内管理上の計数。バーゼルⅢ規制最終化(完全実施)により2029年3月末に 適用される規制に基づく試算値。その他有価証券評価差額金を含む \*5 KSの計数にはGCB帰属分のみを含み、その他の事業本部帰属分を除く。BDIはエンティティベース。 24年度中間期はKS決算期変更影響を社内管理上の計数にて調整 \*6 会計基準差異調整後。市場帰属分を除く



# (参考) 事業本部別業績(3/4)

#### 受託財産事業本部\*1

期初の市況変動ある中、国内投信への資金純流入継続による預り資産残高の増加や、IS領域におけるバンドルサービス進展により増益

(億円)	24年度 中間期	25年度 中間期	増減
粗利益	2,105	2,574	+470
AM	719	754	+35
IS	1,012	1,415	+403
年金	373	405	+32
経費(▲)	1,479	1,846	+368
経費率	70%	72%	+1ppt
営業純益	626	728	+102
当期純利益	442	495	+52
<b>経済資本</b> (兆円)	0.5	0.4	▲0.0
ROE	11.5%	14.0%	+2.5ppt

## グローバルCIB事業本部\*1

- 欧米でのPF\*2やアジアでの買収案件増加を背景に、 各地域で手数料収益が大きく伸長し、営業純益は増益
- 当期純利益は前年に計上した大口の与信費用の剥落等 により大幅に増益

(億円)	24年度 中間期	25年度 中間期	増減
粗利益	3,489	3,776	+287
預貸金収益	1,838	1,817	▲21
手数料	1,433	1,704	+272
外為・デリバティブ	158	179	+22
DCM·ECM	140	140	▲0
経費(▲)	1,817	1,961	+144
経費率	52%	52%	▲0ppt
営業純益	1,672	1,815	+143
当期純利益	943	1,470	+527
RWA <sup>*3</sup> (兆円)	23.4	24.2	+0.8
ROE	8.0%	11.5%	+4.0ppt



## (参考) 事業本部別業績(4/4)

#### 市場事業本部\*1

- セールス&トレーディングは、国内外の債券市場の流動性 低下等を受けたフィクストインカム業務の苦戦により減益
- トレジャリーは、前年の債券ポートフォリオの組替えによる 資金収益増が、前年の大口売買益の反動を打ち返し増益

(億円)	24年度 25年度 中間期 中間期		増減
粗利益	3,529	3,482	<b>▲</b> 48
セールス&トレーディング	1,715	1,610	<b>▲</b> 104
トレジャリー	1,748	1,760	+12
経費(▲)	1,399	1,435	+36
—————————————————————————————————————	40%	41%	+2ppt
営業純益	2,130	2,047	▲84
セールス&トレーディング	618	459	▲159
トレジャリー	1,456	1,485	+29
当期純利益	1,431	1,495	+64
経済資本 (兆円)	4.4	4.3	▲0.0
ROE	10.0%	10.5%	+0.5ppt

# 中計の3本柱:成長戦略の進化 - 戦略別トピックス

国内リテール 顧客基盤の強化	<ul> <li>新サービスブランド「エムット M 」をリリース</li> <li>カード獲得や新規口座開設は好調、Gr連携も拡大</li> </ul>
法人×WMビジネス の強化	<ul><li>・ 社内体制・顧客アプローチを強化</li><li>・ 事業承継関連融資や資産運用ビジネス等の 増強により、WM営業純益が着実に伸長</li></ul>
GCIB・市場一体 ビジネスモデルの進化	<ul> <li>一体ROEの中計目標を前倒し達成見込み</li> <li>GSS*2のケイパビリティを量・質ともに増強</li> </ul>
アジア プラットフォームの 強靭化	<ul> <li>PB*3は、オートローン等の事業基盤強化と KSの経費構造改革に注力</li> <li>CIB領域ではインドビジネスを強化</li> </ul>
資産運用立国 実現への貢献	<ul><li>ISのKPI目標前倒し達成</li><li>クレジット/オルタナ領域の施策が進展</li></ul>
GX起点での バリューチェーン支援	<ul> <li>国内外で幅広くエンゲージメント活動を展開</li> <li>FA*4/MLA*5として伴走してきた再エネやCN*6 新技術の領域でファイナンス実績を積み上げ</li> </ul>
新たな事業ポート への挑戦	<ul><li>SaaSとのサービス連携深化や、エンタメ等 新領域への参入を通じ、事業ポートを拡大</li><li>電力先物等、前年展開した事業も堅調</li></ul>

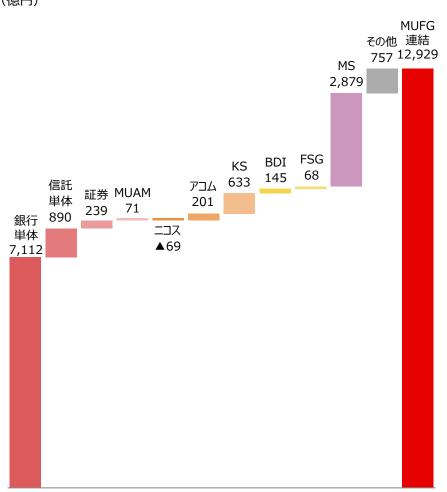


## 【連結】

## (参考) 主要業態別業績

### 親会社株主純利益の主要業態別内訳\*1

(億円)



#### 主要業態別の業績概要\*2

銀行単体		単体	信託単体		証券	
(億円)	25年度 中間期	前年 同期比	25年度 中間期	前年 同期比 <sup>*3</sup>	25年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	14,700	+1,292	1,999	▲222	1,777	<b>▲</b> 78
業務純益	7,450	+591	934	▲265	337	▲41
当期純利益	7,112	▲35	890	<b>▲</b> 763	239	▲49

	MU	MUAM		ニコス		1 <b>L</b>
(億円)	25年度 中間期	前年 同期比	25年度 中間期	前年 同期比	25年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	240	+13	1,250	+169	1,456	+82
業務純益	98	+4	101	▲2	935	+55
当期純利益	71	+17	<b>▲</b> 69	▲38	509	+211

	KS		BDI		FSG	
(億円)	25年度 中間期	前年 同期比 <sup>*4</sup>	25年度 中間期	前年 同期比	25年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	3,445	+113	899	▲89	439	<b>▲</b> 93
業務純益	1,608	▲0	368	<b>▲</b> 60	94	▲39
当期純利益	823	+168	157	+11	68	<b>▲</b> 36



B/Sの概要

【連結】

B/Sサマリー

( )内は前年度末比

(兆円) **総資産 404.3 (▲8.7)** 25/9末時点

貸出金\*1

124.8 (+1.8)

国内法人\*2 54.6 (+2.3)

海外\*3 48.4 (+2.0)

政府等 5.4 (▲2.5)

有価証券\*4

85.9 (▲0.1)

国債 29.3 (▲5.1)

外債 32.9 (+4.0)

**193.5** (▲10.5) 日銀当預<sup>\*5</sup> 76.4 (▲16.7)

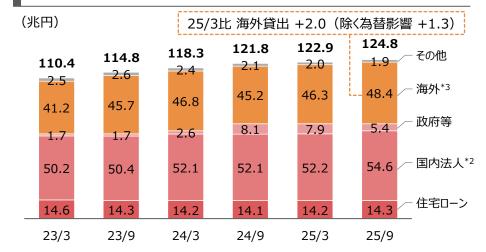
14

その他

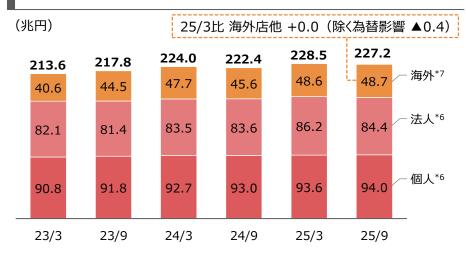
		23/37(4)		
	預金			
227	.2	<b>(▲1.2)</b>		
個人*6	94.0	(+0.4)		
法人 <sup>*6</sup>	84.4	<b>(</b> ▲1.7)		
海外 <sup>*7</sup>	48.7	(+0.0)		
その他				
154.8		(▲8.0)		

純資産 22.2 (+0.5)

### 貸出金推移(末残)\*1



### 預金推移 (末残)





<sup>\*1</sup> 銀行勘定+信託勘定 \*2 政府等向け貸出除く、外貨建貸出を含む

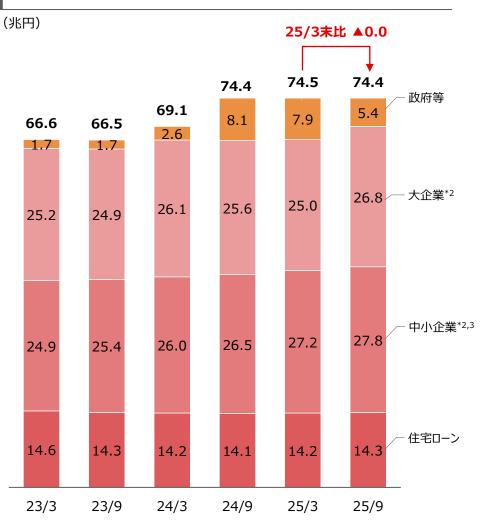
<sup>\*3</sup> 海外支店+MUAH+KS+BDI+MUFGバンク(中国)+MUFGバンク(マレーシア)+MUFGバンク(ヨーロッパ) \*4 銀行勘定

<sup>\*5</sup> 日本銀行当座預金(2行合算+日本マスタートラスト信託銀行) \*6 2行合算 \*7 海外店その他子会社等預金

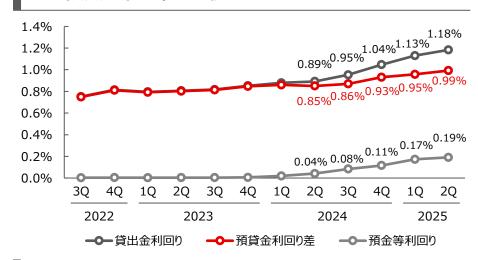
## 国内貸出金

## 【連結・2行合算】

### 貸出金(末残)\*1



#### 国内預貸金利回りの推移\*4,5



### 国内法人貸出利ざや\*2,4,5





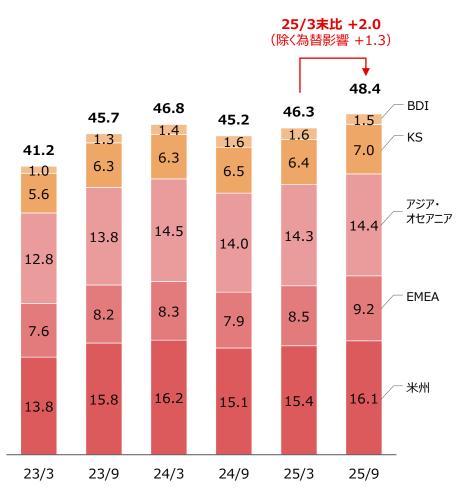
15

海外貸出金

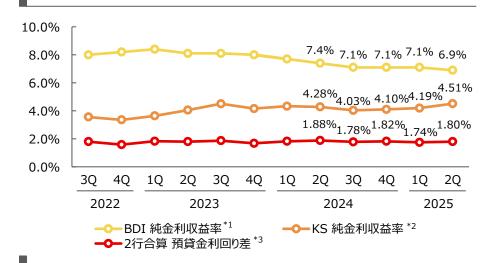
### 【連結・2行合算】

### 貸出金(末残)

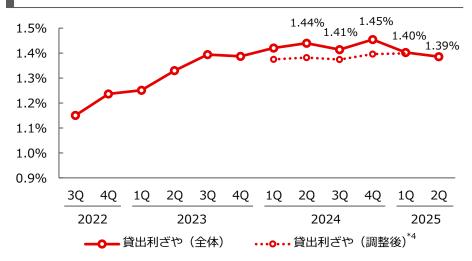
(兆円)



### 海外利回り等の推移



### 海外貸出利ざや\*3



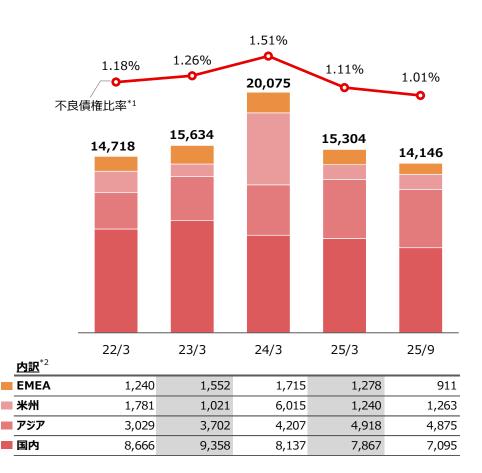


## アセットクオリティ

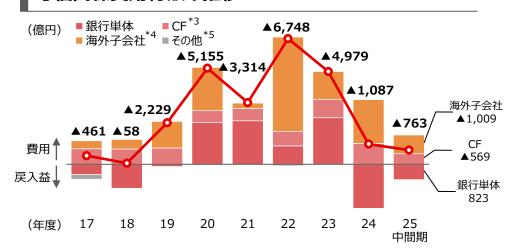
## 【連結】

### 銀行法及び再生法に基づく債権(正常債権を除く)

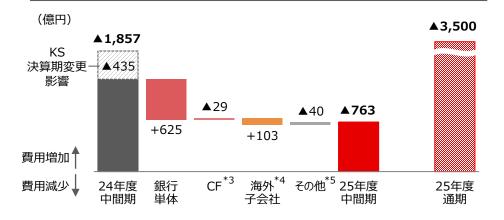
(億円)



#### 与信関係費用総額の推移



### 与信関係費用総額の増減





## 【連結・2行合算】

# 保有有価証券の状況(1/2)

#### 有価証券(時価あり)の内訳

		残高		評価損益		
	(兆円)	25年9月末	25年3月末比	25年9月末	25年3月末比	
1	満期保有目的	23.84	+0.57	-	-	
2	その他有価証券	60.70	▲0.61	2.69	+0.49	
3	国内株式	3.83	+0.29	2.82	+0.36	
4	国内債券	17.95	<b>▲</b> 5.16	▲0.29	▲0.04	
5	うち国債	16.21	▲4.96	▲0.19	▲0.03	
6	その他	38.91	+4.25	0.17	+0.18	
7	うち外国株式	0.77	+0.11	0.11	+0.07	
8	うち外国債券	28.40	+4.21	0.00	+0.11	
9	その他	9.73	▲0.07	0.06	▲0.00	

### その他有価証券評価損益の推移

23/9

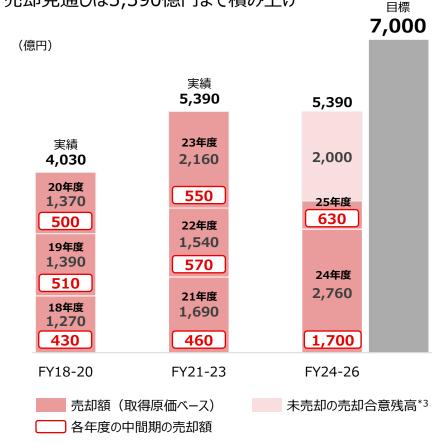
(兆円) ■ 国内債券の評価損益(ヘッジポジション等勘案後\*1) **▲**0.2 ▲0.2 ▲0.2 ▲0.2 ▲0.2 ▲0.3 ▲0.12 ▲0.21 **▲**0.12 ▲0.13 ▲0.24 ▲0.29 23/3 23/9 25/3 25/9 24/3 24/9 ■ 外国債券の評価損益(ヘッジポジション等勘案後\*1) 0.1 0.00 0.0 **▲**0.5 **▲**0.5 ▲0.7 **▲0.8** ▲0.11 ▲0.56 ▲0.99 **▲**1.11 **▲**1.70

24/3

#### 政策保有株式の削減\*2

25年9月末時点の今中計期間における累計売却実績は 計3,390億円

未売却の今中計期間中の売却合意残高を含めて、 売却見通しは5,390億円まで積み上げ





23/3

24/9

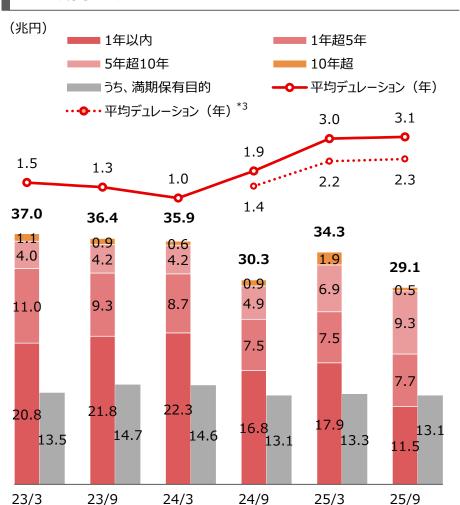
25/3

25/9

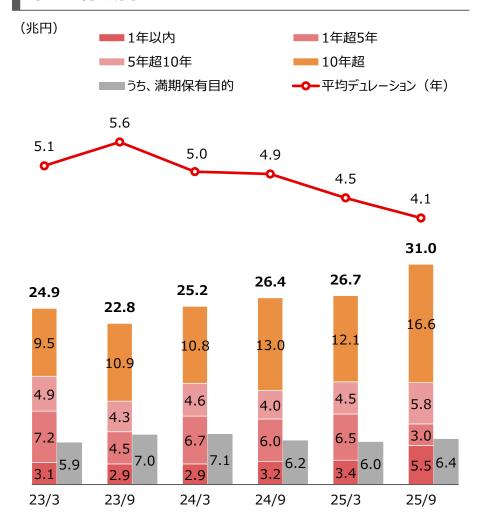
## 保有有価証券の状況(2/2)

## 【2行合算】

#### 国債残高\*1・デュレーション\*2



### **外国債券残高\*1・デュレーション\*2**





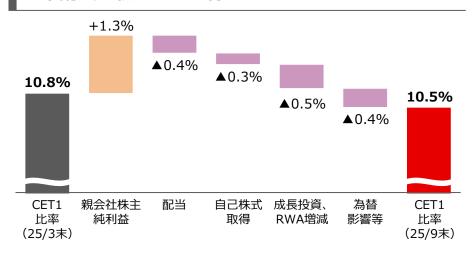
### 資本・リスクアセットの額

	(億円)	25年 3月末	25年 9月末	25年 3月末比
1	普通株式等Tier1資本 (CET1)	151,692	156,052	+4,360
2	その他Tier1資本	26,356	30,967	+4,611
3	Tier1資本	178,048	187,020	+8,972
4	Tier2資本	23,401	23,507	+106
5	総自己資本 (Tier1+Tier2)	201,450	210,528	+9,078
6	リスクアセット	1,069,304	1,108,080	+38,775
7	信用リスク	946,902	982,363	+35,461
8	マーケットリスク	25,438	27,503	+2,064
9	オペレーショナルリスク	96,963	98,213	+1,249
10	フロア調整	-	-	-
11	<b>総エクスポージャー</b> *1	3,360,335	3,428,958	+68,622

### 規制資本比率

			25年 3月末	25年 9月末	25年 3月末比	
1		含み益込み	14.18%	14.08%	▲0.10%	
2	<b>CET1比率</b>	含み益除き <sup>*2</sup>	10.8%	10.5%	▲0.3%	
_		中期経	営計画 ターゲ	ットレンジ 9.5	-10.5%	
3	レバレッジ比率	K	5.29%	5.45%	+0.15%	
4	<sup>4</sup> 外部TLAC 比率	リスクアセットベース	24.64%	25.26%	+0.61%	
5		総エクスポージャーベース <sup>*1</sup>	9.16%	9.51%	+0.34%	

### 資本配賦実績 - 含み益除き\*2





## (参考) 業務粗利益の内訳

## 【連結】

### 資金利益

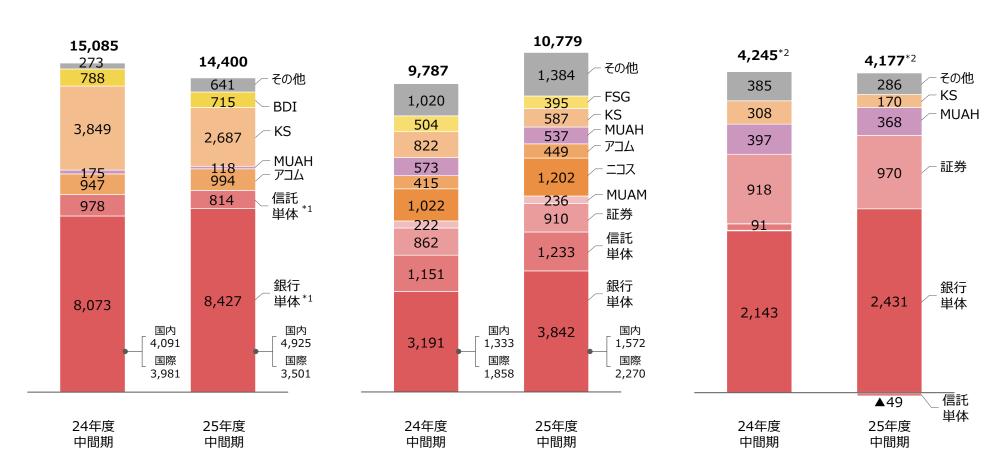
### 信託報酬+役務取引等利益

### 特定取引利益+その他業務利益

(億円)

(億円)

(億円)

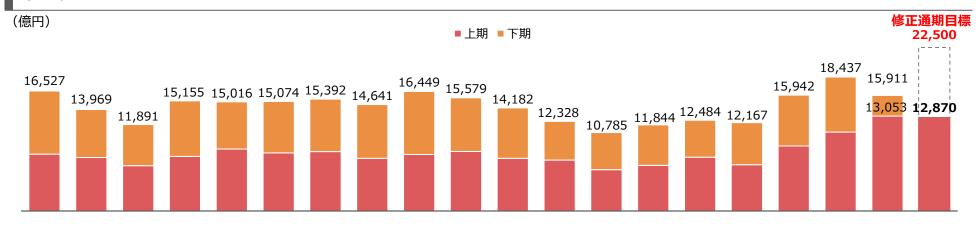


<sup>\*1</sup> 投信解約損益(2行合算)として以下を含む。

<sup>24</sup>年度中間期:銀行単体 846億円、信託単体 182億円 | 25年度中間期:銀行単体 2億円、信託単体 80億円

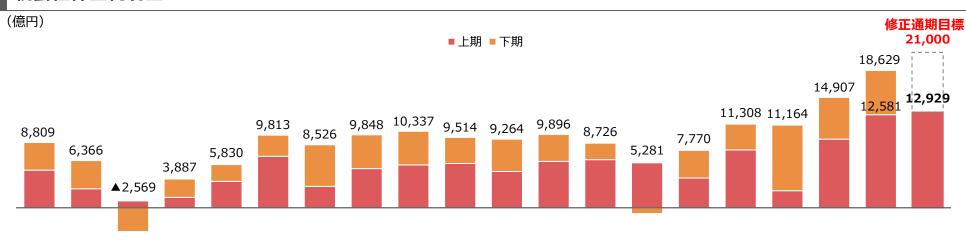
<sup>\*2</sup> 国債等債券関係損益として以下を含む。24年度中間期:23億円 25年度中間期:29億円

#### 業務純益



06年度 07年度 08年度 09年度 10年度 11年度 12年度 13年度 14年度 15年度 16年度 17年度 18年度 19年度 20年度 21年度 22年度 23年度 24年度 25年度

#### 親会社株主純利益



06年度 07年度 08年度 09年度 10年度 11年度 12年度 13年度 14年度 15年度 16年度 17年度 18年度 19年度 20年度 21年度 22年度 23年度 24年度 25年度

## ディスクレーマー

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。

#### 本資料における計数・表記の定義

• 業務粗利益: 信託勘定償却前連結業務粗利益

• 業務純益: 連結業務純益(一般貸倒引当金繰入前、信託勘定償却前)

親会社株主純利益: 親会社株主に帰属する中間純利益

• 与信関係費用総額: 与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益)+貸倒引当金戻入益+

偶発損失引当金戻入益(与信関連)+償却債権取立益

連結 : 三菱UFJフィナンシャル・グループ(連結)銀行 : 三菱UFJ銀行

• 2行合算 : 三菱UFJ銀行単体と三菱UFJ信託銀行単体の単純合算 • 信託 : 三菱UFJ信託銀行

RD : リテール・デジタル事業本部証券 : 三菱UFJ証券ホールディングス

・ 法人ウェルス : 法人・ウェルスマネジメント事業本部・ MUMSS : 三菱UFJモルガン・スタンレー証券

• JCIB : コーポレートバンキング事業本部 • MUAM : 三菱UFJアセットマネジメント

受財 : 受託財産事業本部
 GCIB : グローバルCIB事業本部
 MUAH : 米州MUFGホールディングス
 KS : クルンシィ(アユタヤ銀行)

市場 : 市場事業本部・ BDI : ダナモン銀行

• FSG : First Sentier Group

• MS : Morgan Stanley

